

愛知教育大学教職大学院FD全体会

(2013年度愛知教育大学教育研究重点配分経費)

**本学教職大学院の応用・基礎修了者と  
応用在学者の学びに関する研究  
—教師の教師による教師のためのAction Research—**

2014年2月28日(金)

宮下 治・倉本 哲男

## 話の流れ

- 研究のねらいと実態調査の概要
- 回答いただいた方々について
- 校内研修(現職教育)実態調査の結果
- 回答者自身の校内研修における役割や意識
- 初任者教員や若手教員に対する回答者の関わり
- 愛知教育大学教職大学院のカリキュラム改善に向けて

# I 研究のねらいと実態調査の概要

## I-1 研究のねらい

応用領域の修了者・在学者、並びに基礎領域の修了者の現任校における役割や意識などの実態を把握することにより、ミドルリーダーとしてさらに成長していくことができる本学教職大学院のカリキュラムを構築していくことが本研究のねらいである。

## I-2 実態調査の実施(その1)

1. 調査対象 ; 「応用領域」 修了者・在学者 95名
2. 調査時期 ; 2013年8月
3. 回答者数 ; 61名 (回収率 ; 64.2%)
4. 回答者内訳 ;

2008年度入学者 7名	2011年度入学者 10名
2009年度入学者 6名	2012年度入学者 10名
2010年度入学者 11名	2013年度入学者 17名

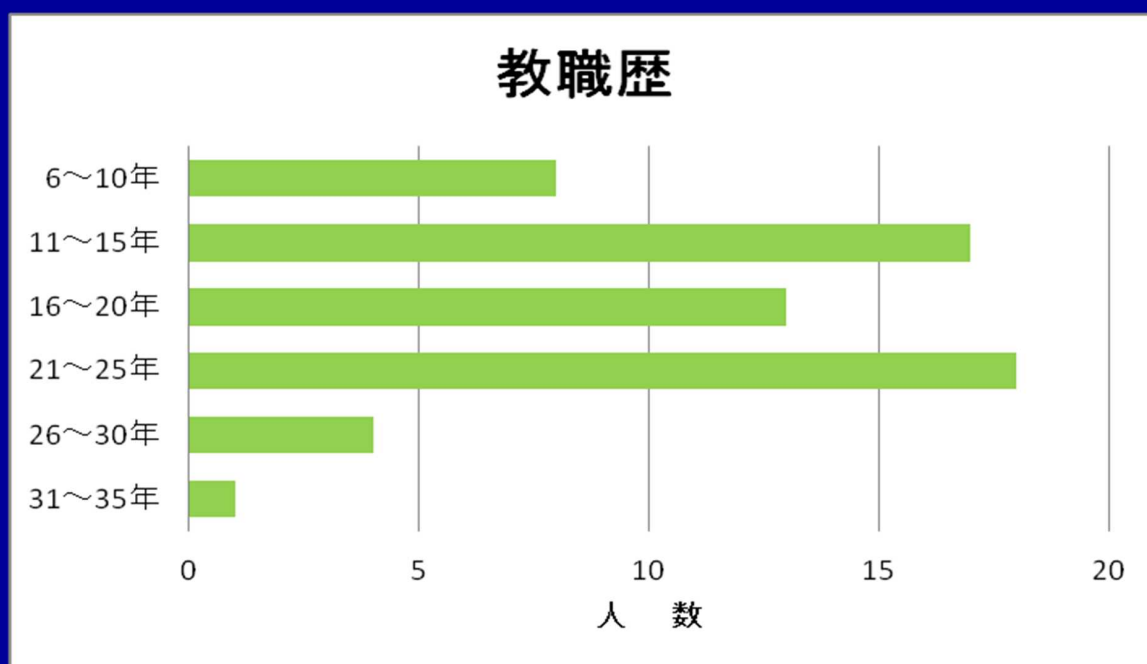
## I-3 実態調査の実施(その2)

1. 調査対象 ; 「基礎領域」 修了者 58名
2. 調査時期 ; 2013年8月
3. 回答者数 ; 19名 (回収率 ; 32.8%)
4. 回答者内訳 ;

2008年度入学者 2名	2010年度入学者 8名
2009年度入学者 5名	2011年度入学者 4名

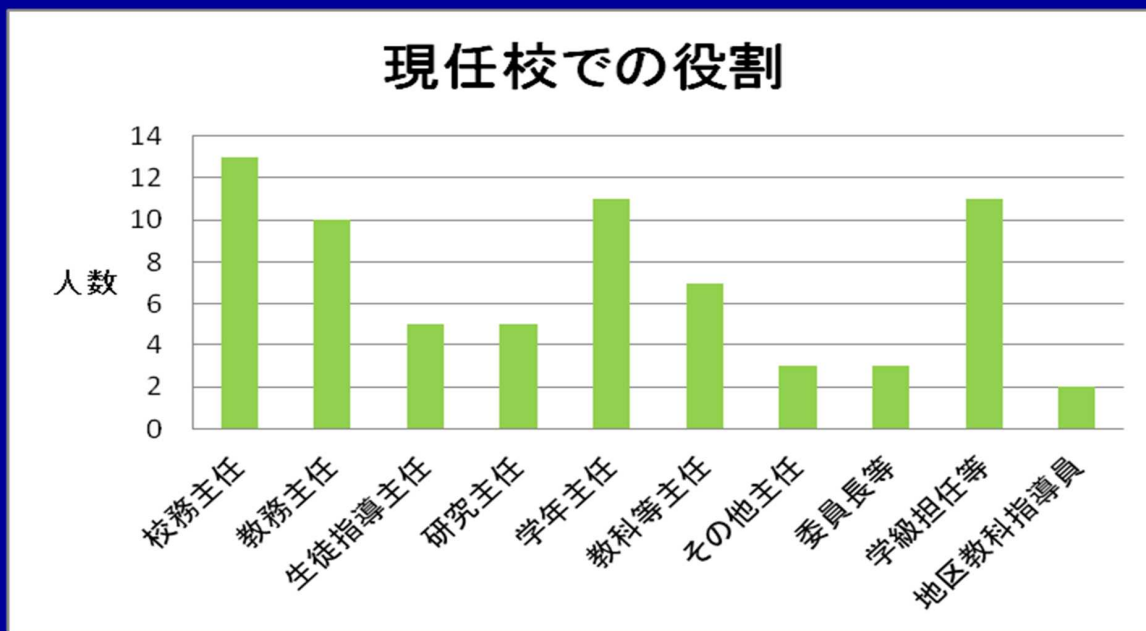
## Ⅱ 回答いただいた方々について

### Ⅱ-1 応用領域で回答をしていただいた方々



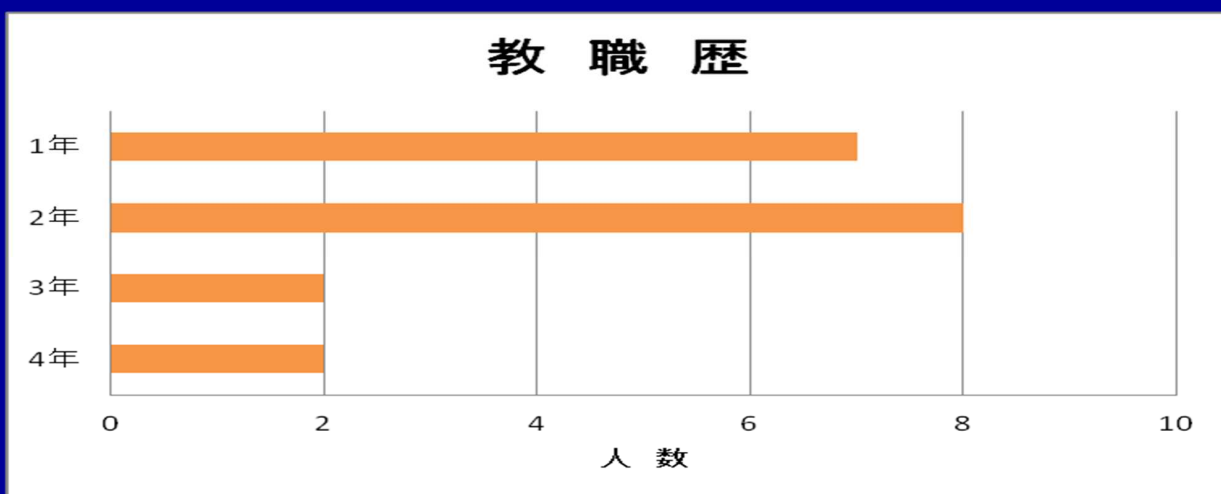
11年から25年の教職歴の方が回答者の 78.7%

## Ⅱ-2 応用領域で回答をいただいた方々



- ① 61人中50人(82.0%)が主任や委員長等の役割
- ② 校務主任、教務主任、学年主任の方が多数

## Ⅱ-3 基礎領域で回答をいただいた方々

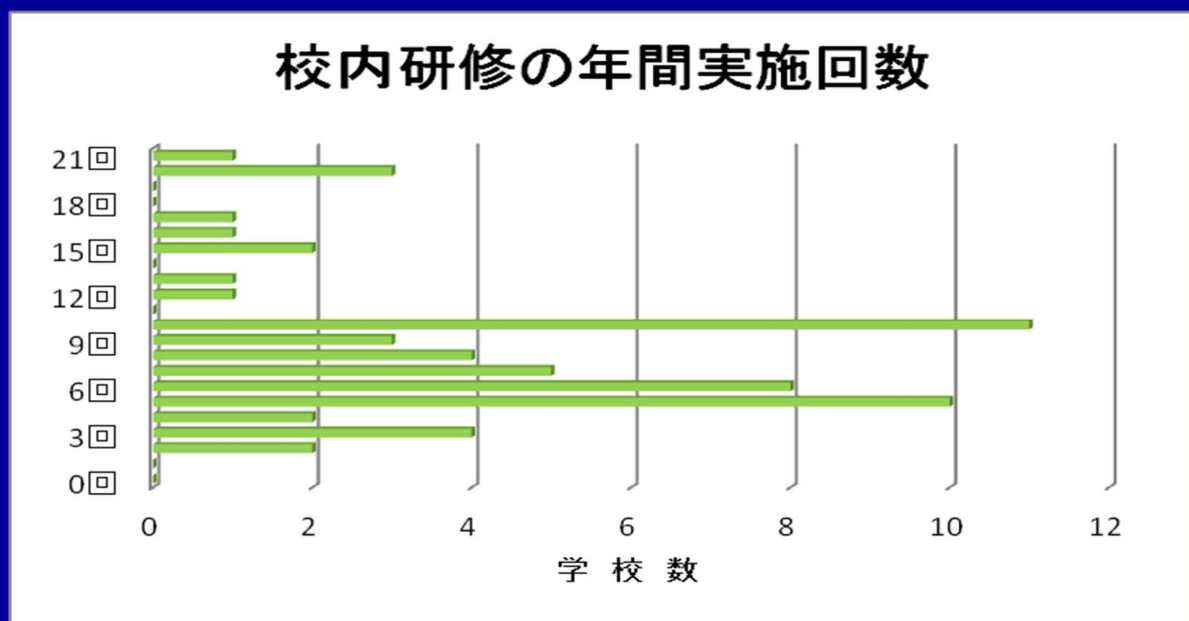


1年目、2年目の教職歴の方が回答者の78.9%

教科等主任	4人
学級担任等	15人

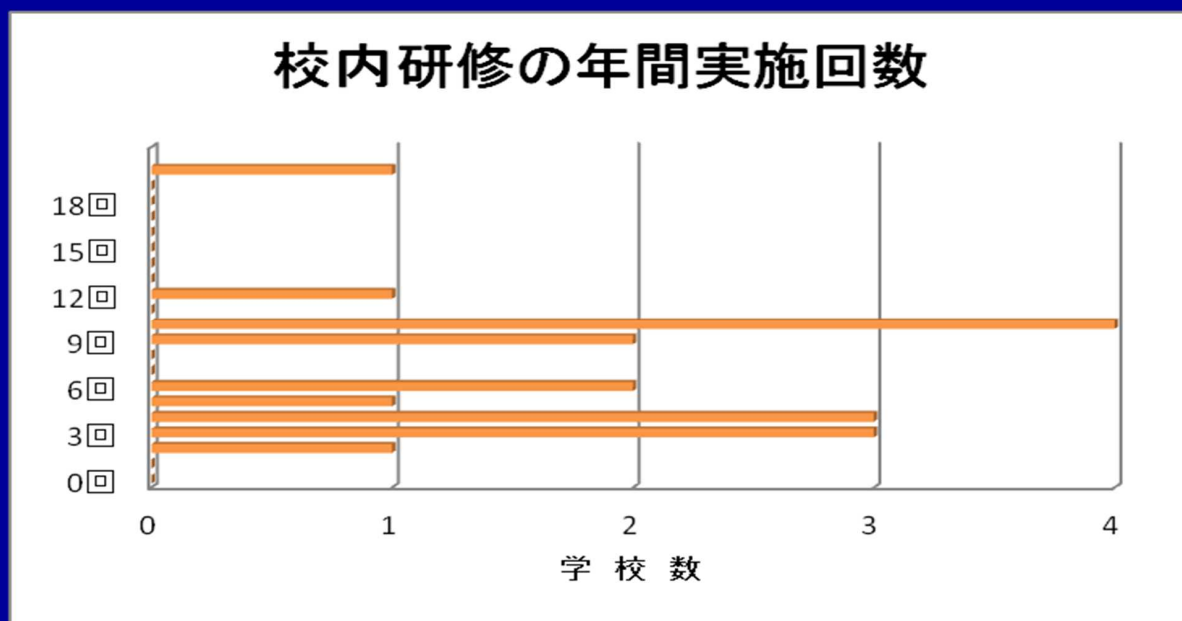
## Ⅲ 校内研修(現職教育) 実態調査の結果

### Ⅲ-1 応用領域 校内研修実態調査の結果(1)



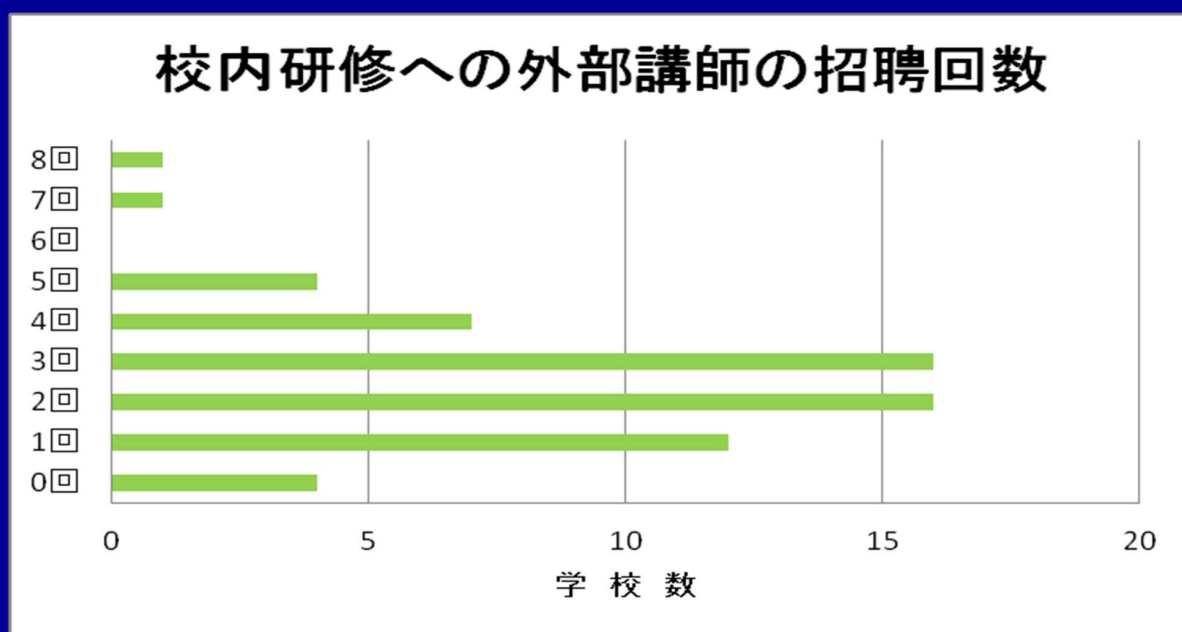
- ① 年間平均 8.39回 校内研修が実施されている。
- ② 年間5回から10回の学校は全体の 67.2% である。

### Ⅲ-2 基礎領域 校内研修実態調査の結果(1)



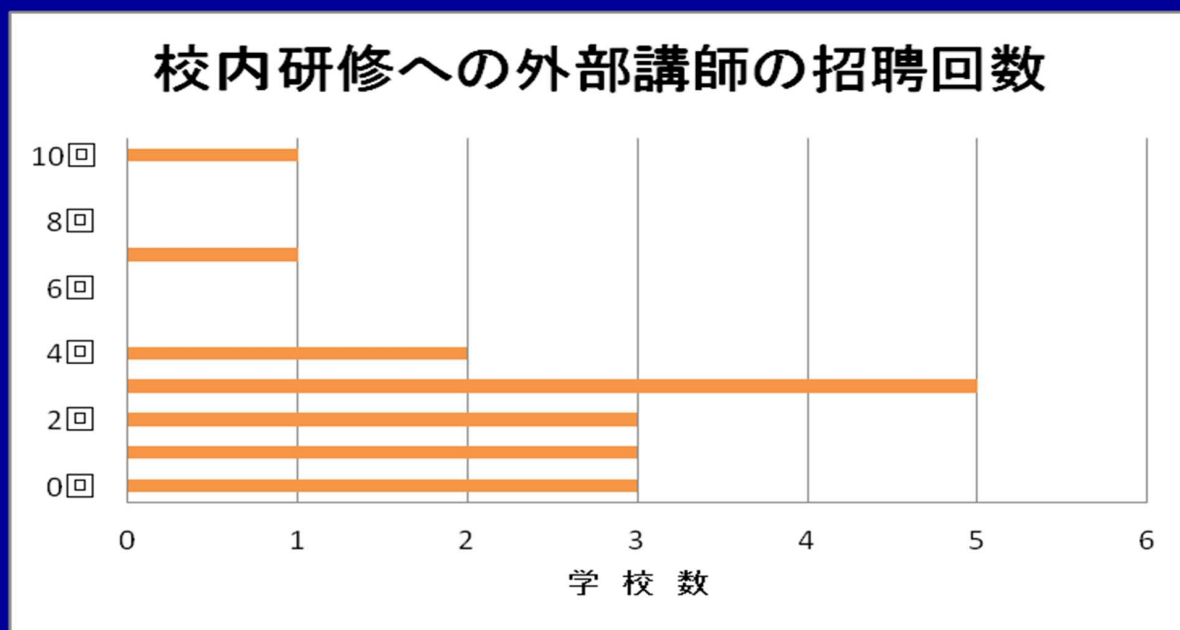
- ① 年間平均 7.22回 校内研修が実施されている。
- ② 応用領域の学校の方が1回ほど多くなっている。

### Ⅲ-3 応用領域 校内研修実態調査の結果(2)



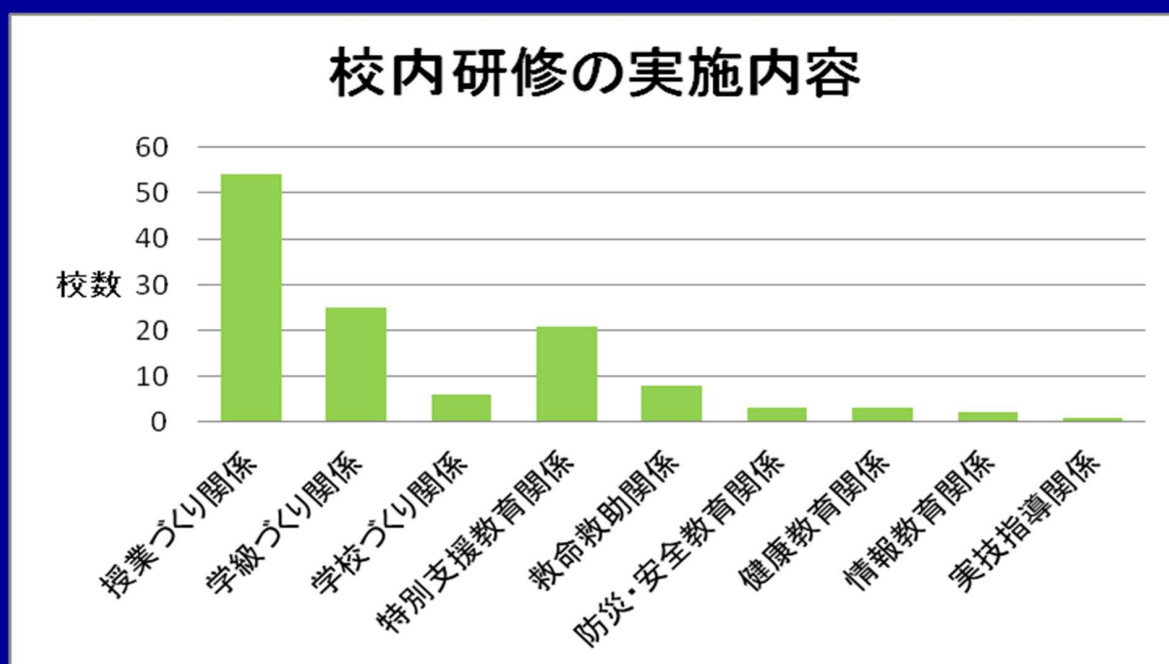
- ① 年平均 2.54回 校内研修へ外部講師を招聘している。
- ② 1回から3回の学校が全体の 72.1% である。

### Ⅲ-4 基礎領域 校内研修実態調査の結果(2)



- ① 年平均 2.72回 校内研修へ外部講師を招聘している。
- ② 応用領域の学校と大きな変化はない。

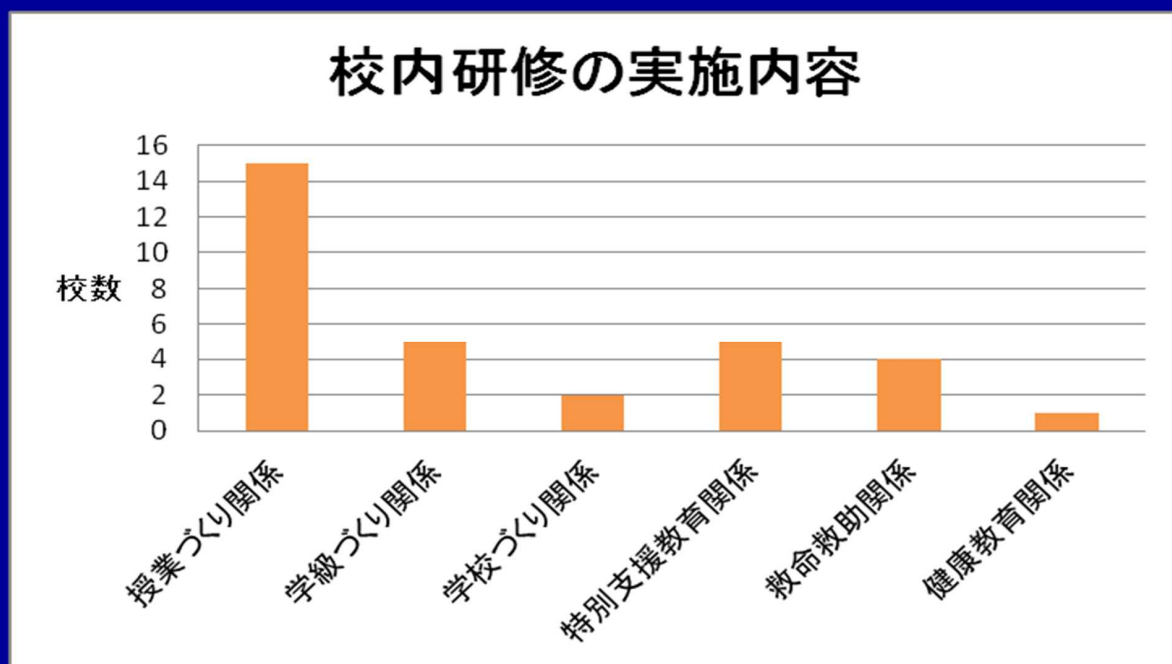
### Ⅲ-5 応用領域 校内研修実態調査の結果(3)



各教科など授業づくりに関する実施校は全体の 88.5%



### Ⅲ-6 基礎領域 校内研修実態調査の結果(3)



各教科など授業づくりに関する実施校は全体の 83.3%  
 応用領域の学校と大きな変化はない。

### Ⅲ-7 校内研修の実施形態

授業づくりに関する校内研修の実施形態	応用領域の方 の学校	基礎領域の方 の学校
教員が計画をした1つの授業を全教員で参観し、その後、全教員で協議をする。	45校 (83.3%)	9校 (50.0%)
予め講師と教員とが意見交換をしながら計画をした授業を全教員で参観し、その後、講師を含めた全教員で協議をする。	20校 (37.0%)	7校 (38.9%)
授業を参観することなく、講師による講話を聴いたり、質疑応答をしたりする。	16校 (29.6%)	5校 (27.8%)
1回に複数の授業を一般の方に同時に公開し、その後、授業ごとに教員を含めた参加者で協議をする。	3校 (5.6%)	2校 (11.1%)
教員が計画をした1つの授業を全教員や保護者などで参観し、その後、参加者全員で協議をする。	1校 (1.9%)	0校 (0%)

### Ⅲ-8 校内研修の実施方法

授業づくりに関する校内研修の実施方法	応用領域の方 の学校	基礎領域の方 の学校
授業者の自己評価と、全教員の意見交換により効果と課題を自主的に探った。	43校 (79.6%)	8校 (44.4%)
抽出した児童・生徒の発話などをもとに、授業分析を行った。	31校 (57.4%)	5校 (27.8%)
グループによる協議や発表などのワークショップにより、研修を進めた。	25校 (46.3%)	7校 (38.9%)
外部講師からの講話を中心に、研修を進めた。	23校 (42.6%)	7校 (38.9%)
その他（授業を参観することなく、生徒に実施したアンケートを見て質疑応答した。）	1校 (1.9%)	—
その他（アドバイスシートを作成して授業評価を行った。）	1校 (1.9%)	—

### Ⅲ-9 Ⅲのまとめ(1)

- ① 校内研修が、年間 8.39回（応用）、7.22回（基礎）実施されている。その内、2.54回（応用）、2.72回（基礎）は外部講師を招聘して実施され、残り、5.85回(69.7%)（応用）、4.5回(62.3%)（基礎）は、教員同士などで実施されている。
- ② 実施内容は、授業づくり関係が88.5%（応用）、83.3%（基礎）と最も多く、学級づくり関係、特別支援教育関係が次いで多い。
- ③ 授業づくり関係の校内研修を行っている学校の内、全教員で参観し、その後、全教員で協議をする形態が83.3%（応用）、50.0%（基礎）と最も多い。
- ④ 授業者の自己評価、全教員の意見交換、発話記録の分析、ワークショップなどにより、自主的に校内研修を進めている。

### Ⅲ-10 Ⅲのまとめ(2)

正に、

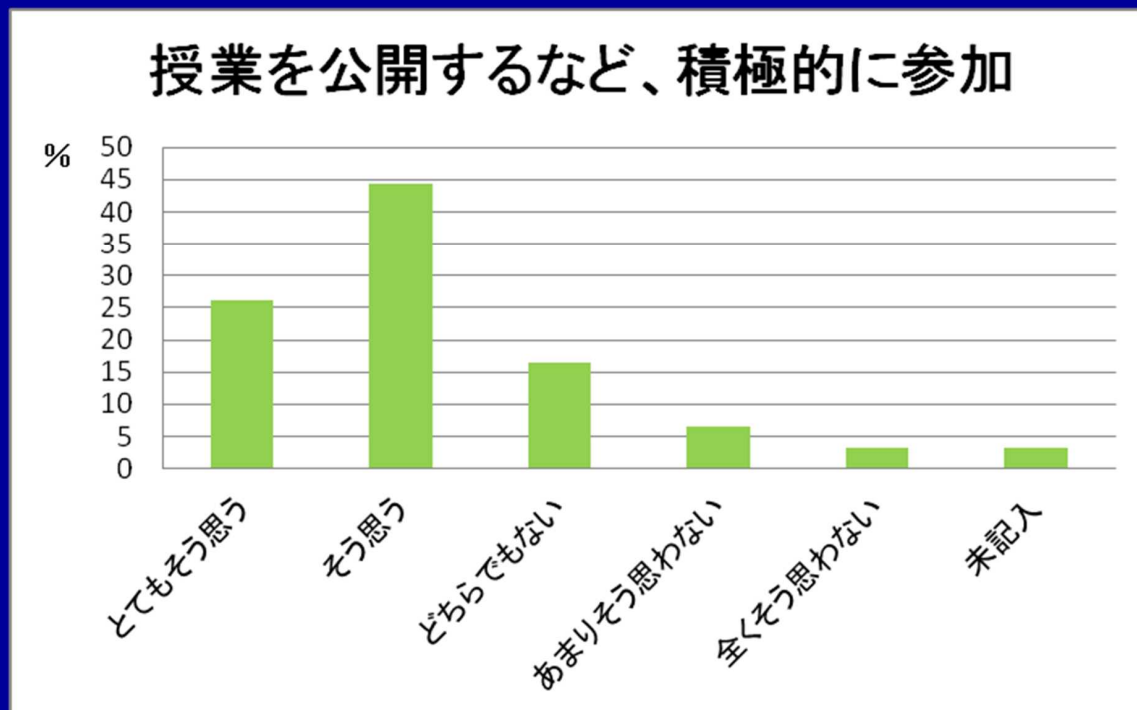
「教師の、教師による、教師のための  
Action Research(行為・実践的研究)」

が、校内研修(現職教育)の中で成されている

ことが確認できた。

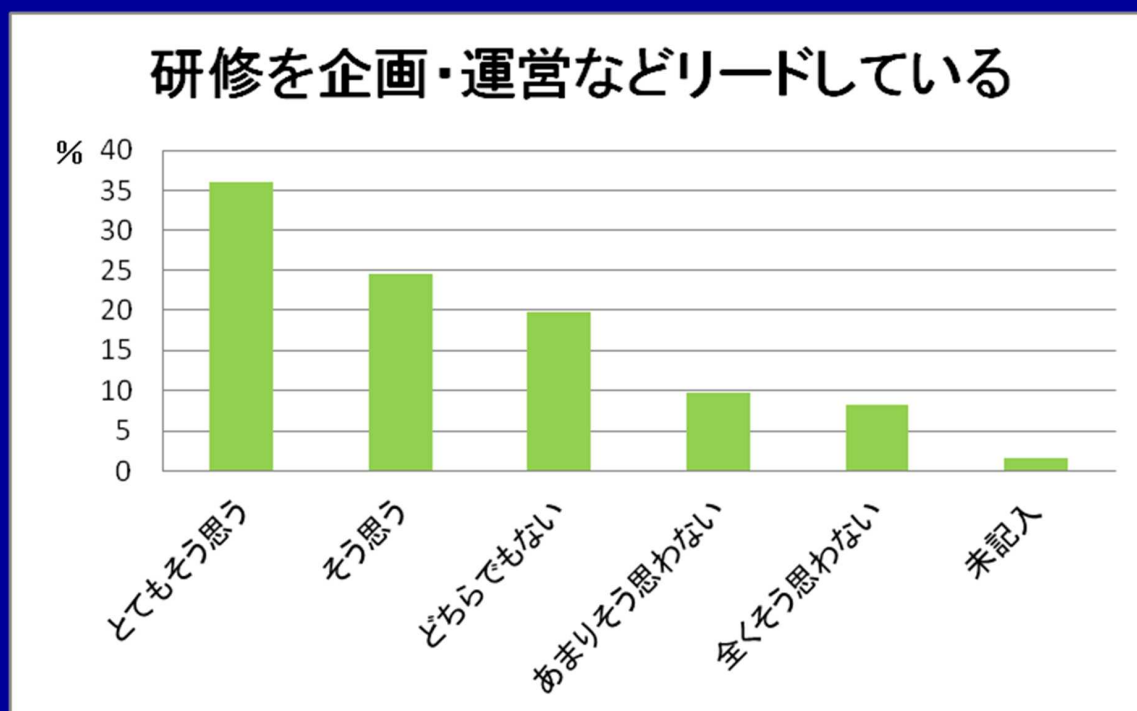
## Ⅳ 回答者自身の校内研修 における役割や意識(その1) (応用領域修了者・在学者)

## IV-1 回答者自身の校内研修での役割や意識



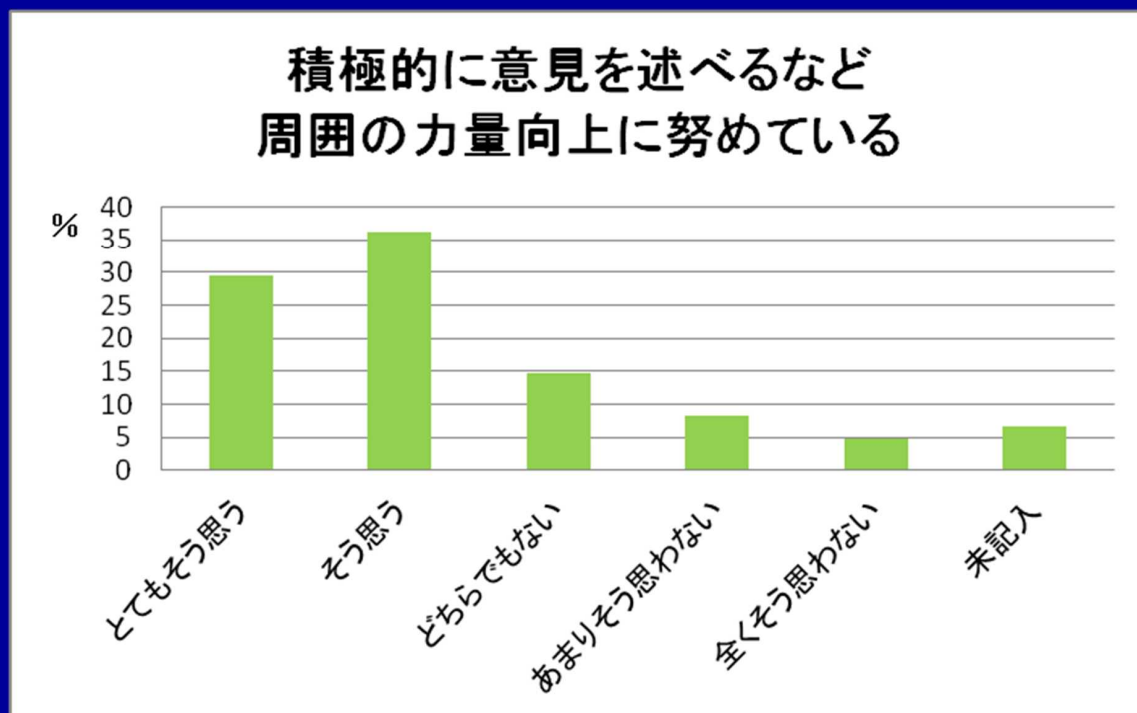
肯定的回答者 70.5% 否定的回答者 13.2%

## IV-2 回答者自身の校内研修での役割や意識



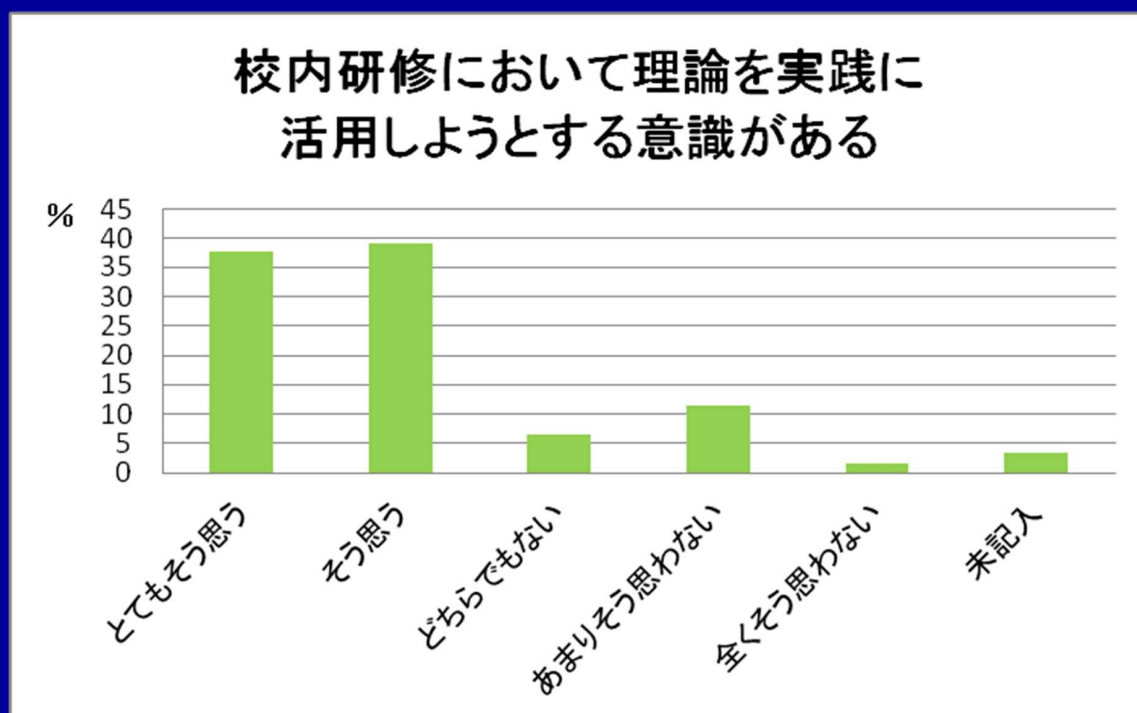
肯定的回答者 60.7% 否定的回答者 19.6%

### IV-3 回答者自身の校内研修での役割や意識



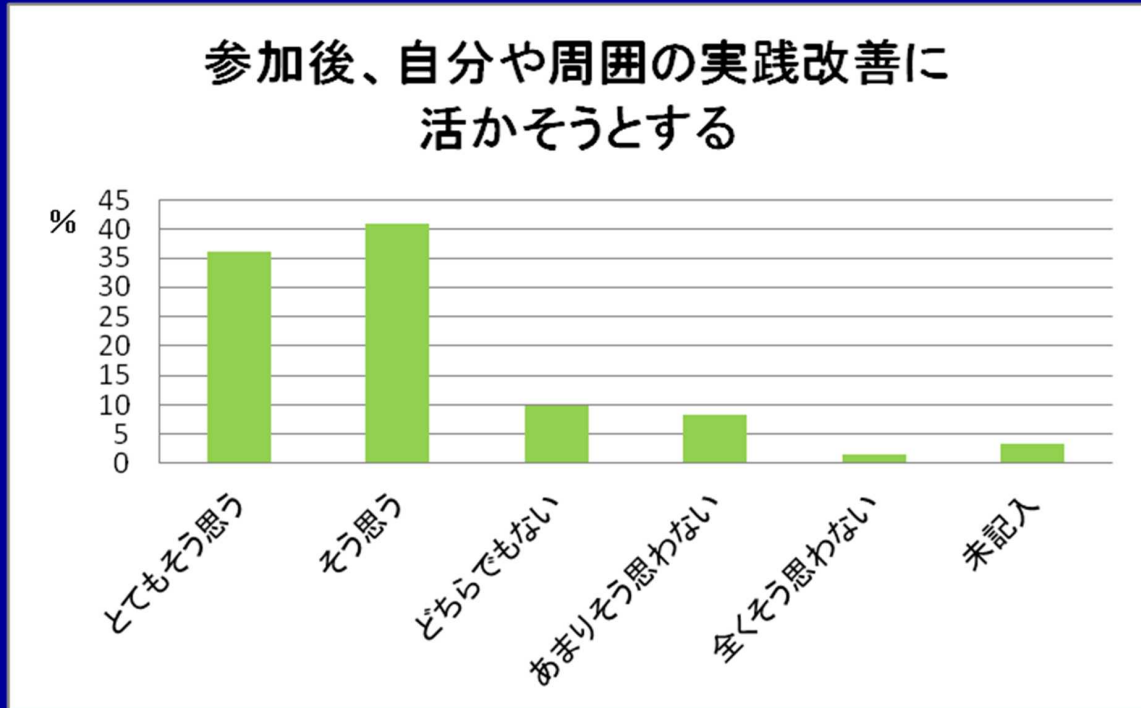
肯定的回答者 65.6%      否定的回答者 19.7%

### IV-4 回答者自身の校内研修での役割や意識



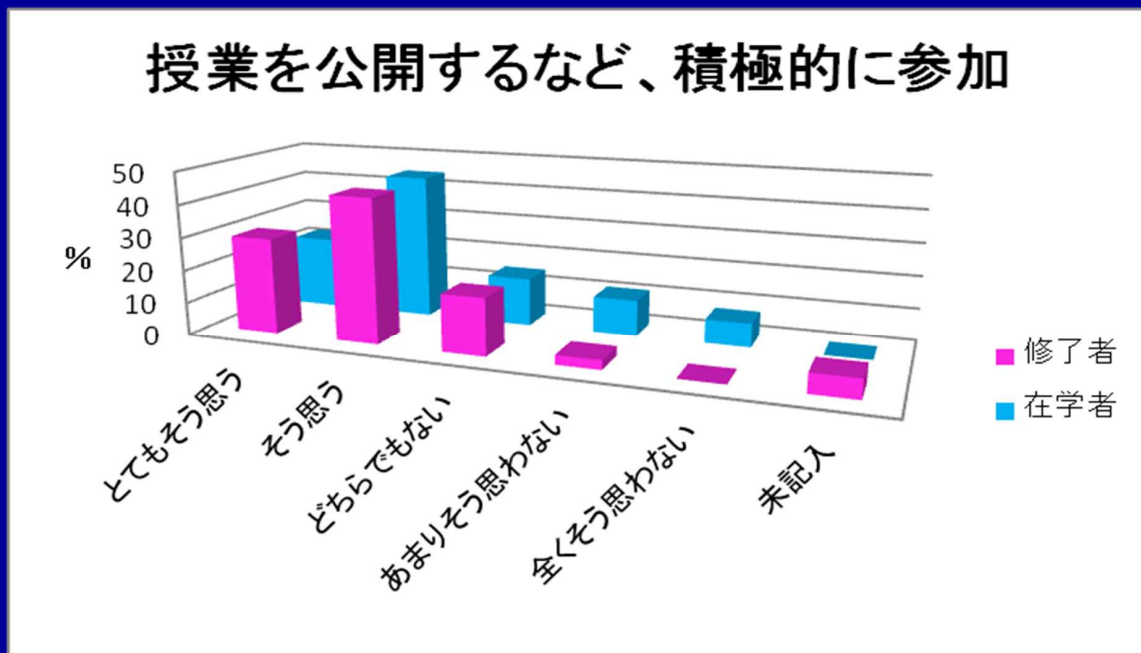
肯定的回答者 77.0%      否定的回答者 16.4%

## IV-5 回答者自身の校内研修での役割や意識



肯定的回答者 77.1%      否定的回答者 13.1%

## IV-6 IV-1質問の修了者と在学者との比較

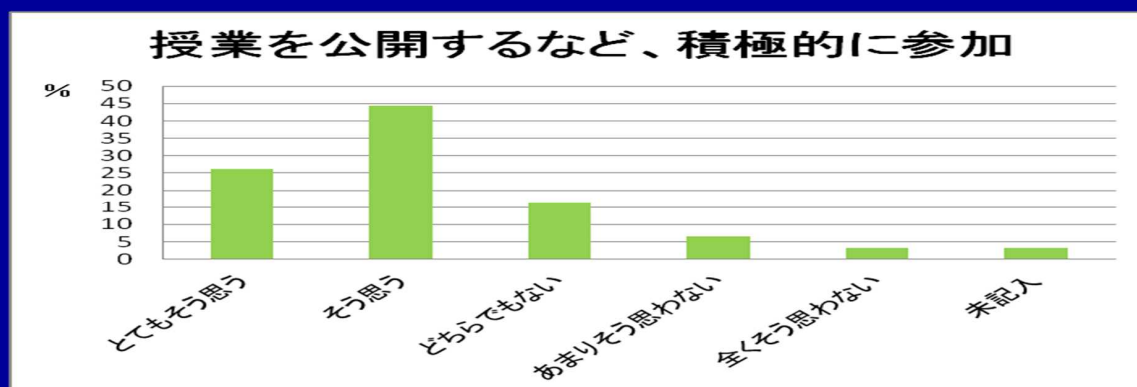


①修了者 肯定的回答者 73.5%      否定的回答者 8.8%  
 ②在学者 肯定的回答者 66.6%      否定的回答者 18.5%

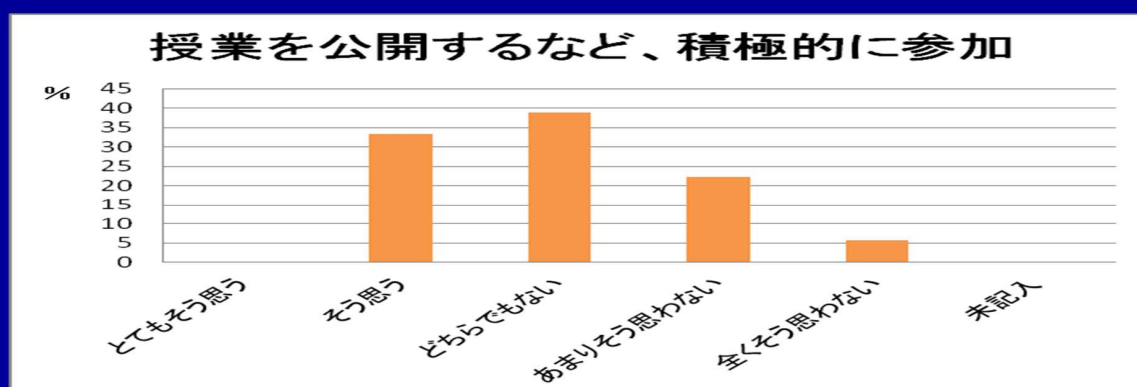
# V 回答者自身の校内研修 における役割や意識(その2) (基礎領域修了者との比較)

## V-1 回答者自身の校内研修での役割や意識

応用

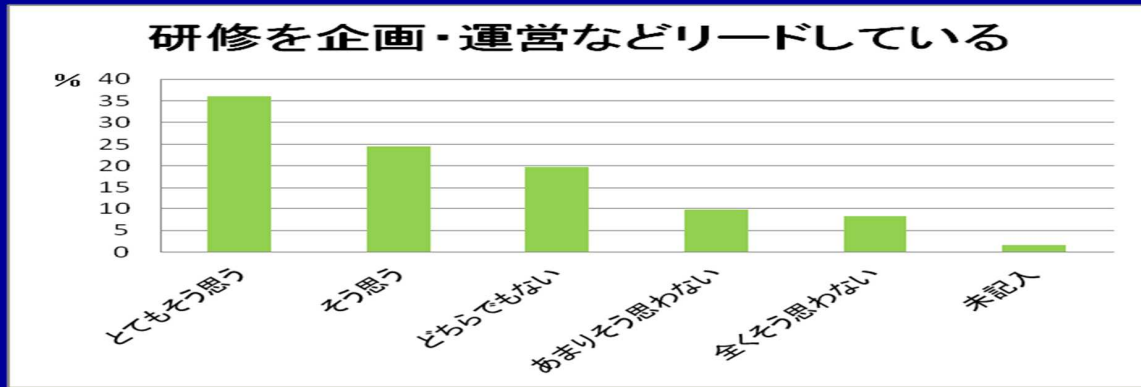


基礎

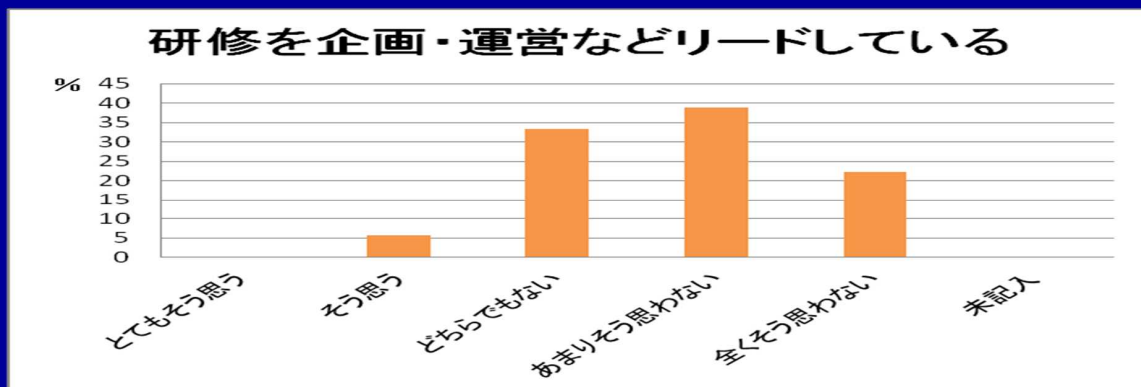


## V-2 回答者自身の校内研修での役割や意識

応用

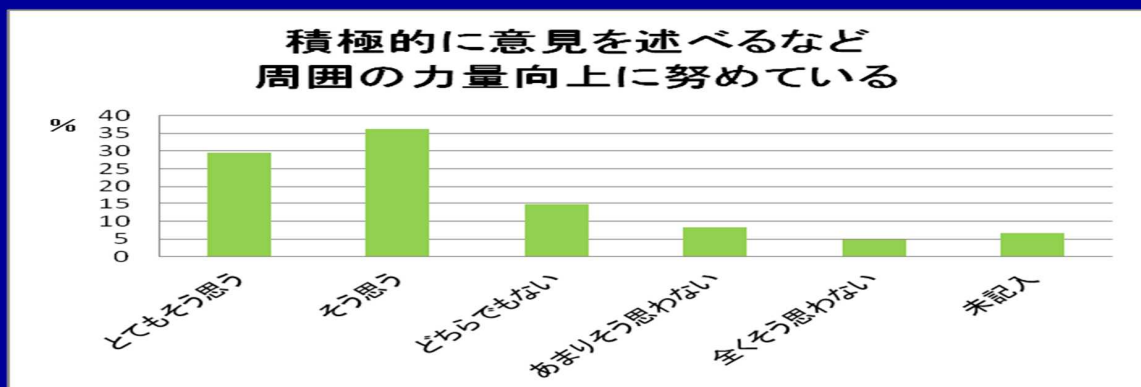


基礎

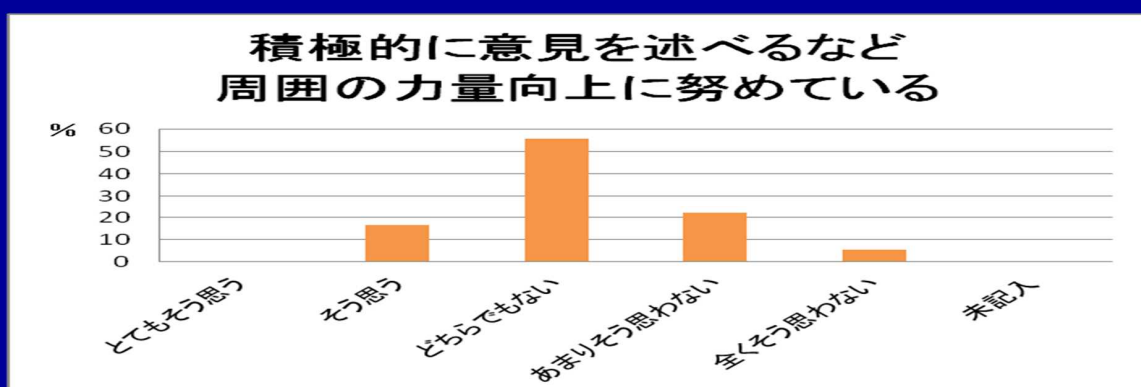


## V-3 回答者自身の校内研修での役割や意識

応用



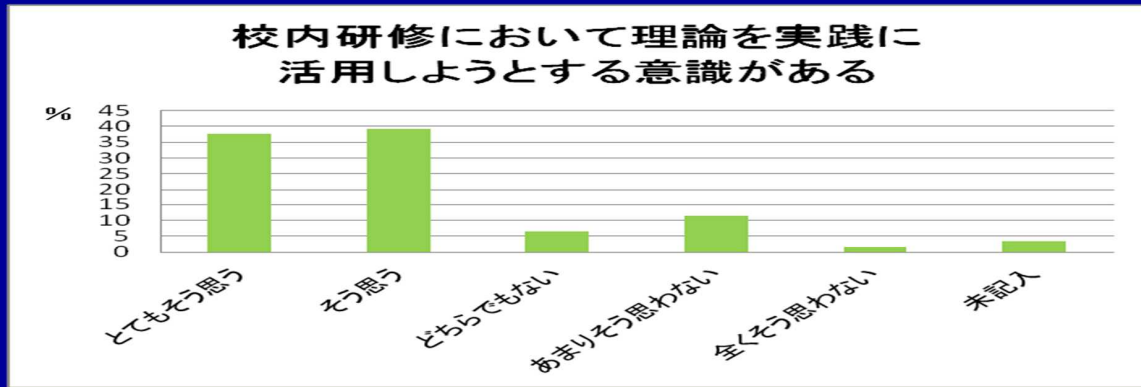
基礎



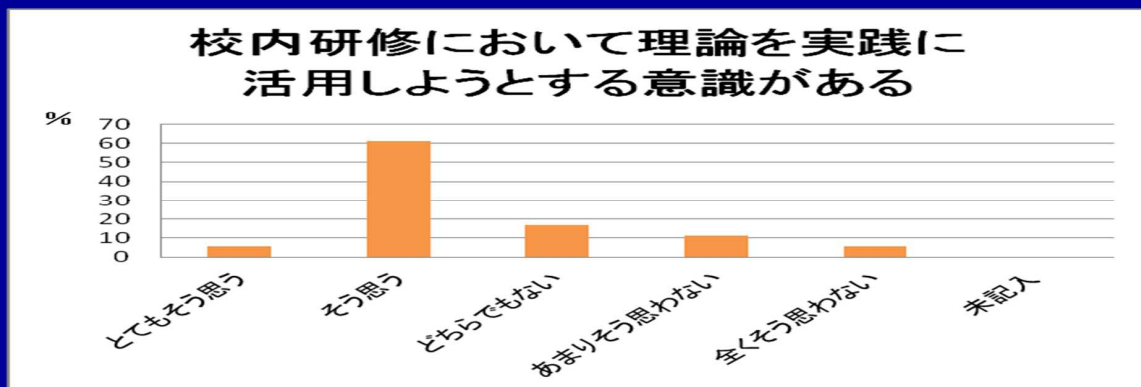


## V-4 回答者自身の校内研修での役割や意識

応用

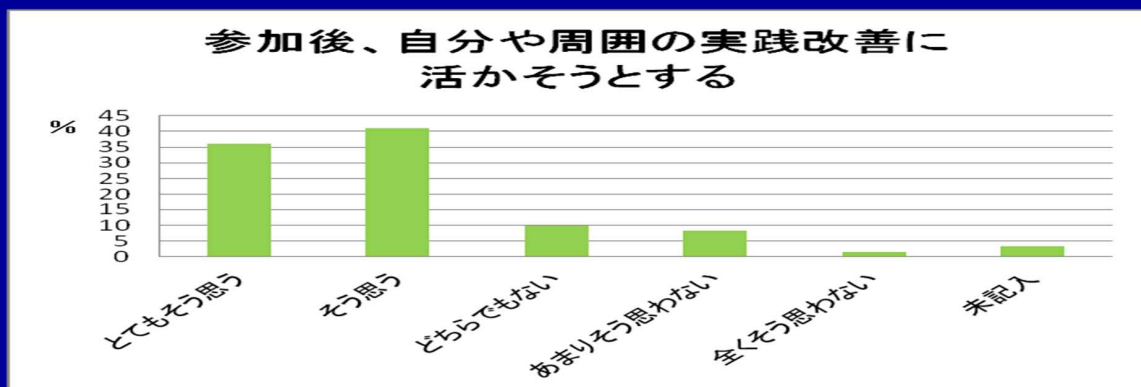


基礎

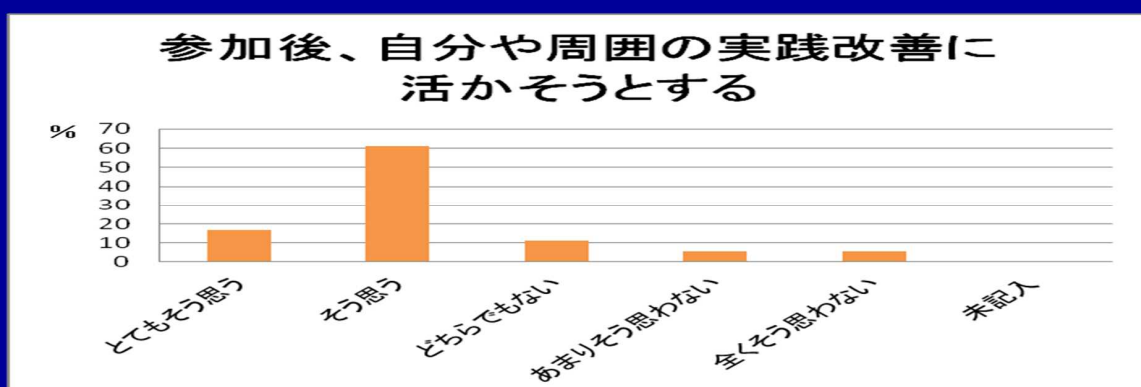


## V-5 回答者自身の校内研修での役割や意識

応用



基礎



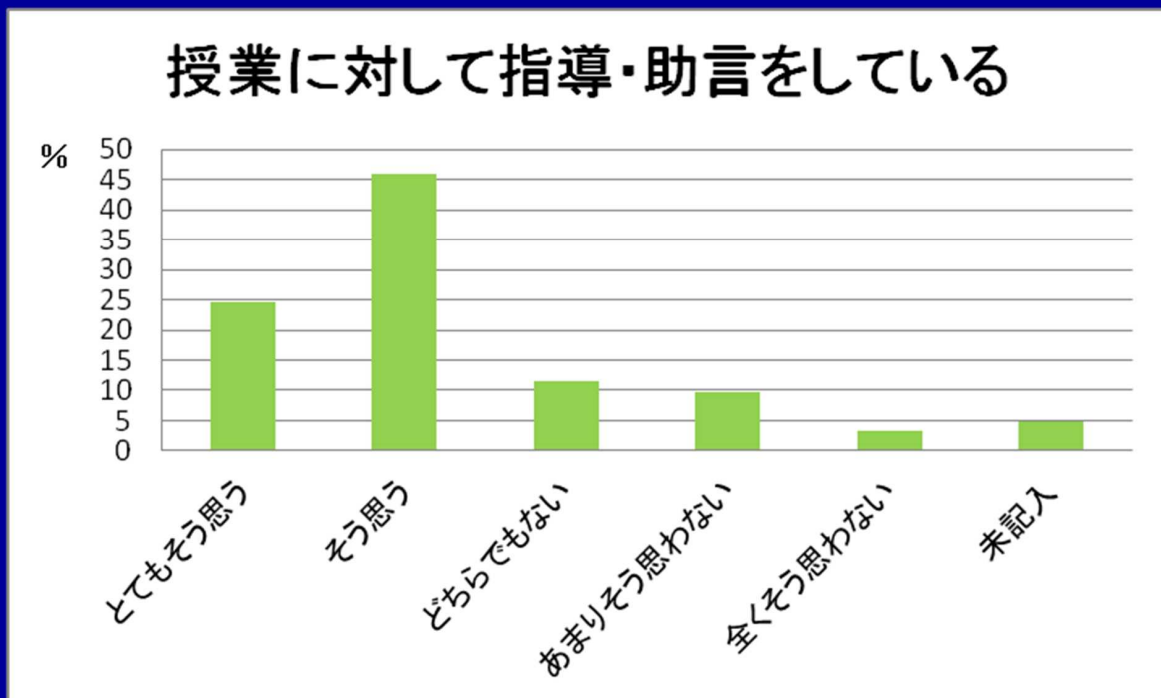
## V-7 IV・Vのまとめ

回答者自身の校内研修(現職教育)における役割や意識を調査した結果、

- ① 応用領域修了者・在学者は、自らの授業を公開するなど、積極的に校内研修に参加・リードしている。
- ② 基礎領域修了者は、校内研修を積極的にリードするまではいかないが、理論を授業実践に生かそうとするなどの意識は高い。

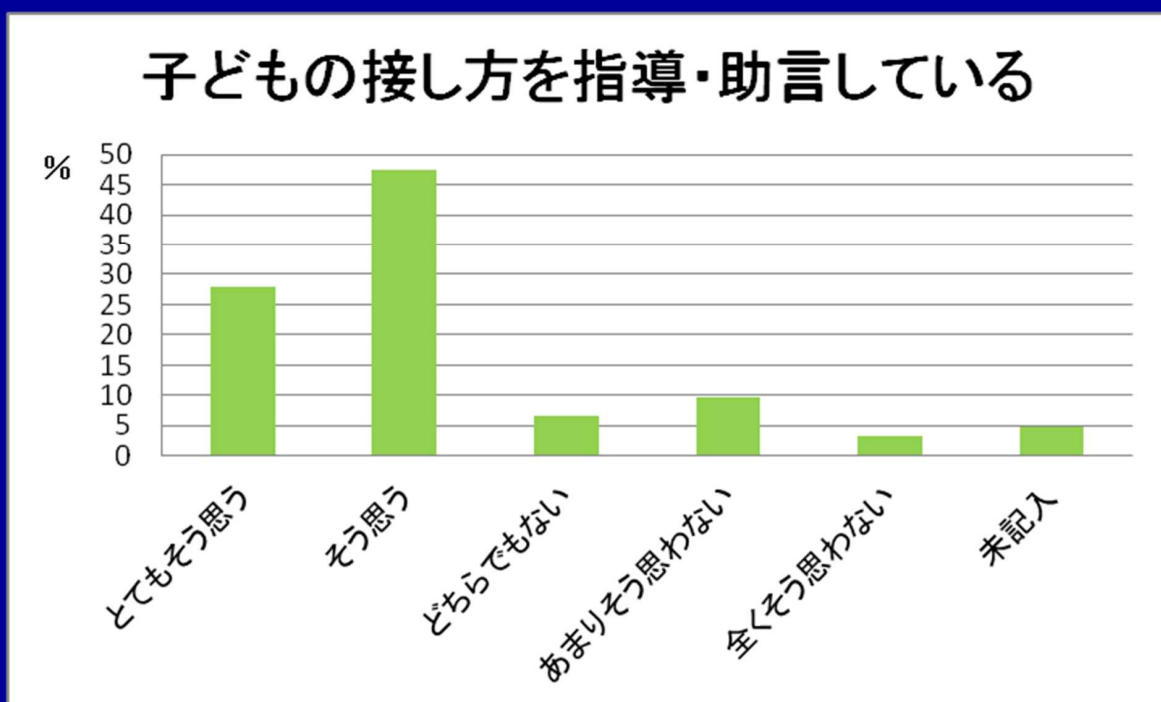
## VI 初任者教員や若手教員に対する 回答者の関わり(その1) (応用領域修了者・在学者)

## VI-1 初任者教員や若手教員に対する関わり



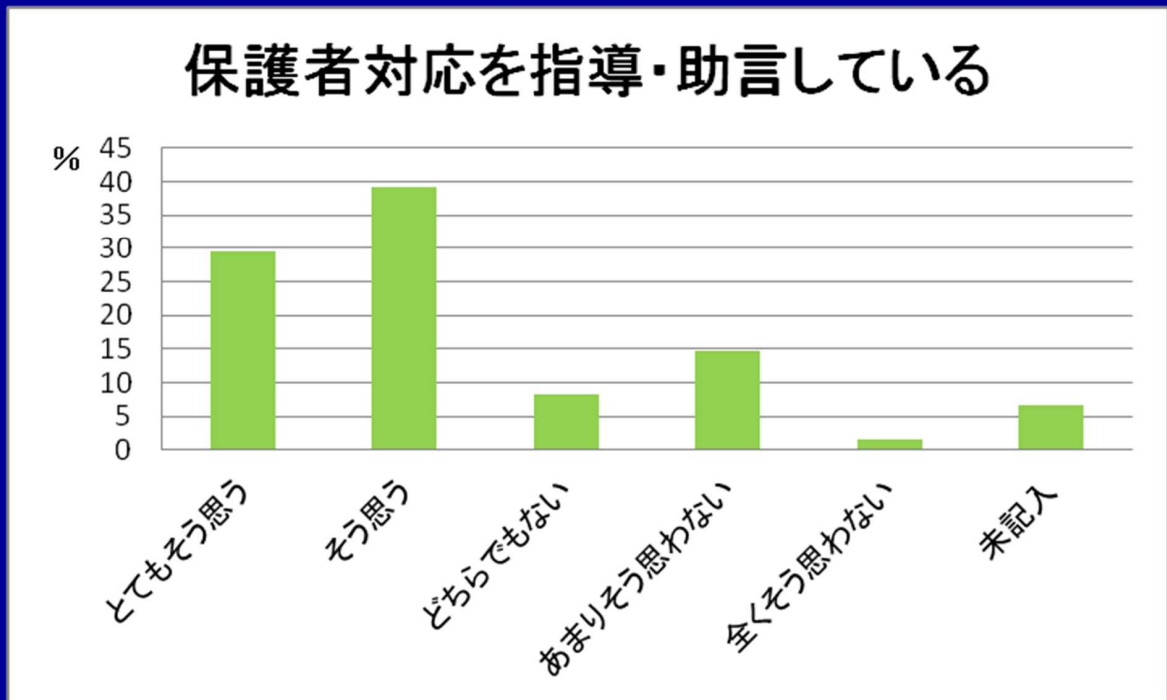
肯定的回答者 70.5% 否定的回答者 18.0%

## VI-2 初任者教員や若手教員に対する関わり



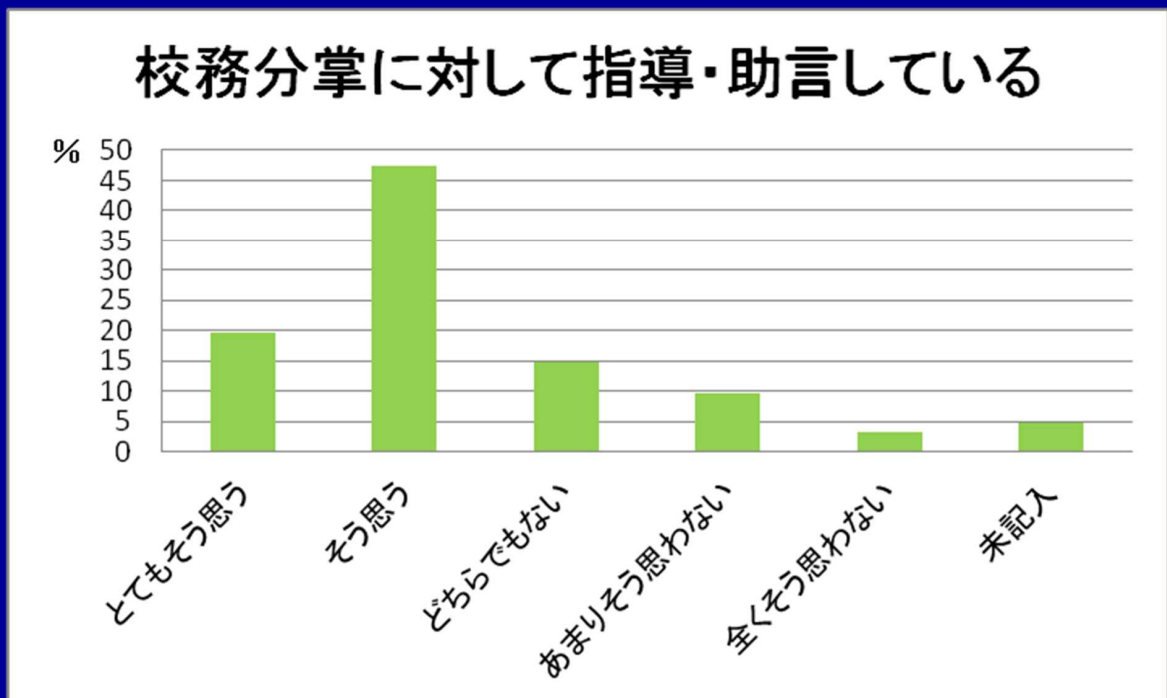
肯定的回答者 75.4% 否定的回答者 18.0%

## VI-3 初任者教員や若手教員に対する関わり



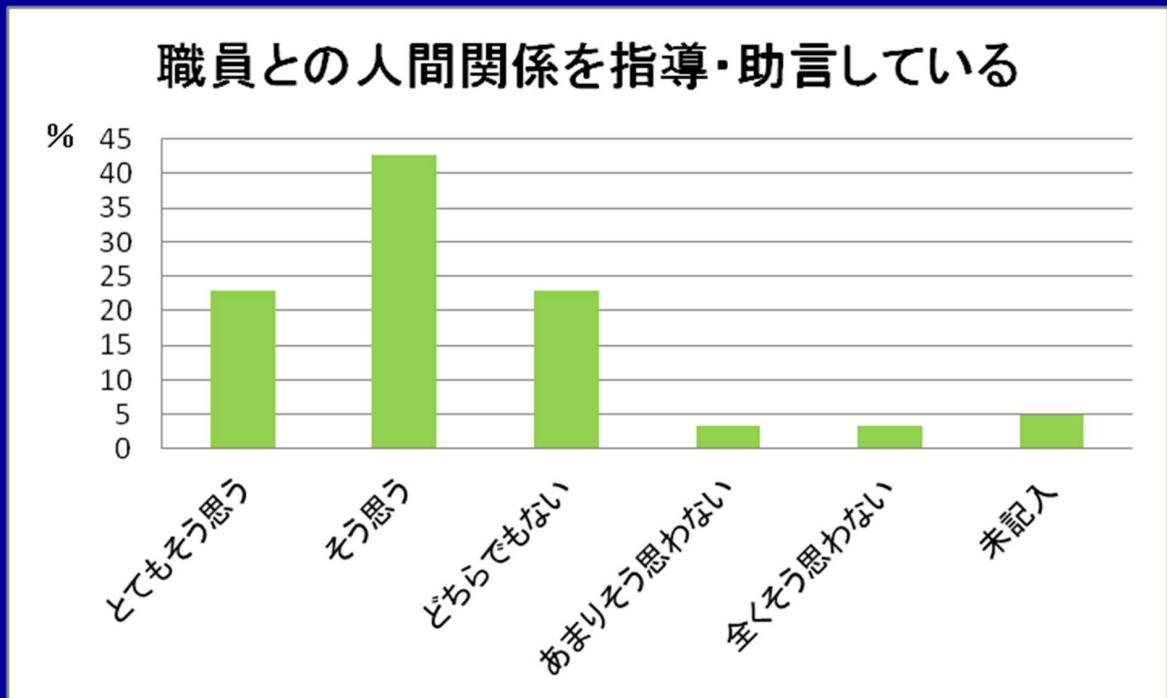
肯定的回答者 68.8% 否定的回答者 23.0%

## VI-4 初任者教員や若手教員に対する関わり



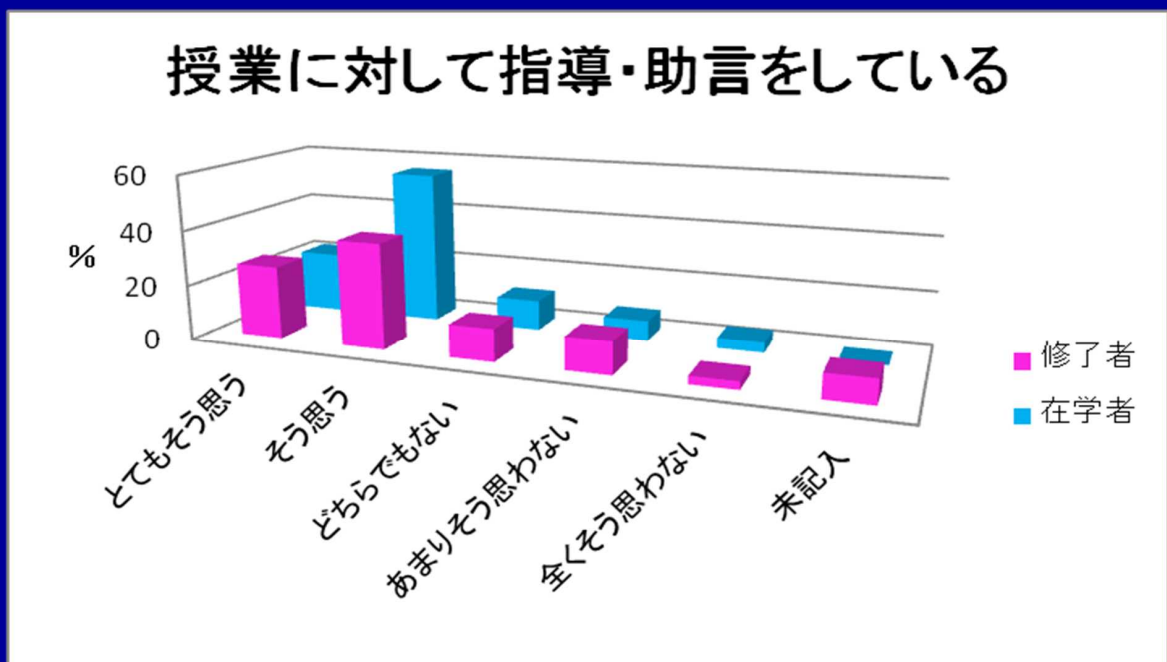
肯定的回答者 67.2% 否定的回答者 18.0%

## VI-5 初任者教員や若手教員に対する関わり



肯定的回答者 65.6%      否定的回答者 11.5%

## VI-6 VI-1質問の修了者と在学者との比較

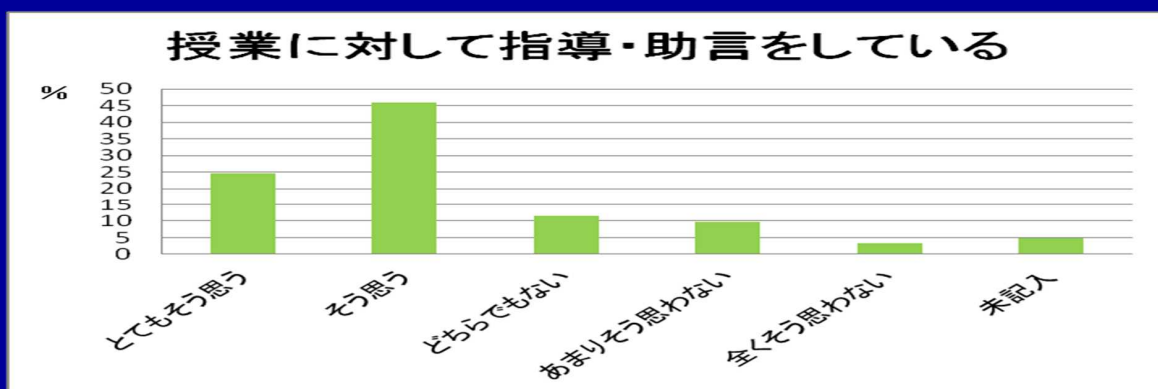


①修了者 肯定的回答者 64.7%      否定的回答者 23.5%  
 ②在学者 肯定的回答者 77.8%      否定的回答者 11.1%

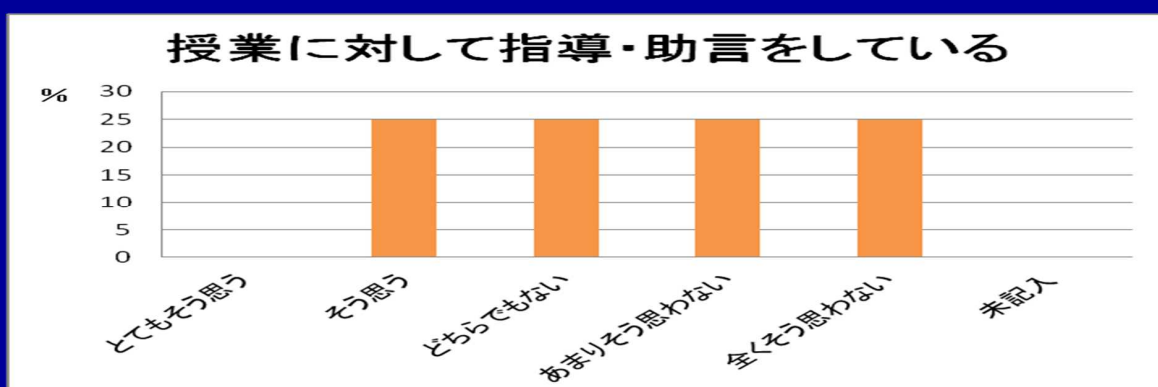
# VII 初任者教員や若手教員に対する回答者の関わり(その2) (基礎領域修了者との比較)

## VII-1 初任者教員や若手教員に対する関わり

応用

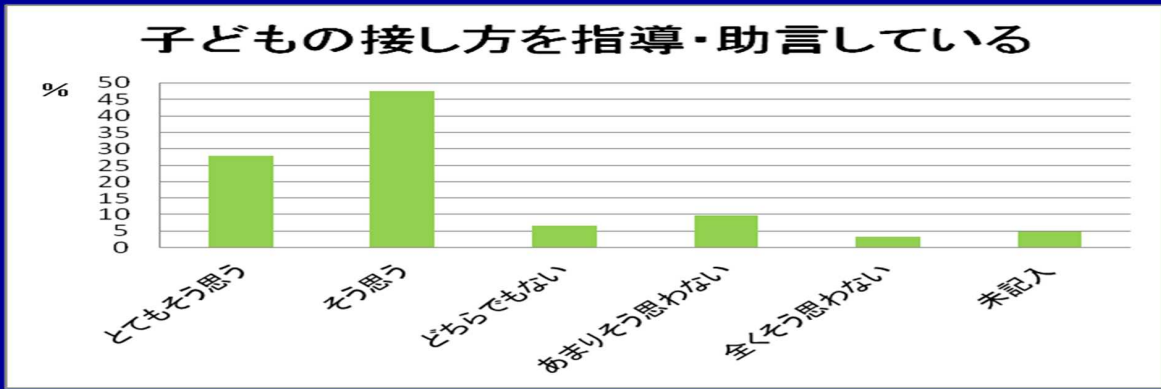


基礎

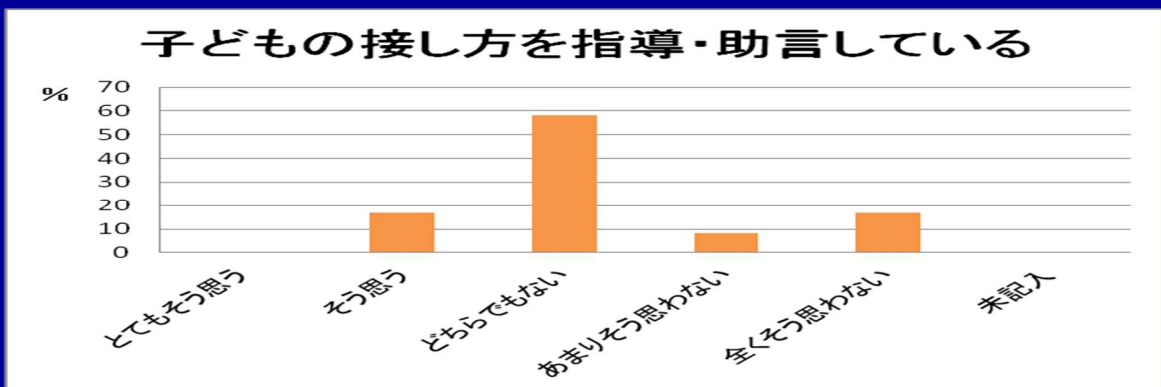


## VII-2 初任者教員や若手教員に対する関わり

応用

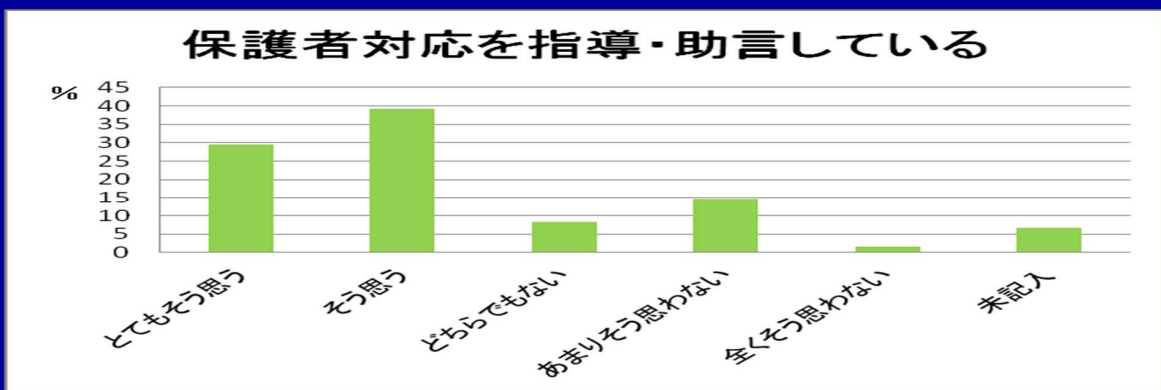


基礎

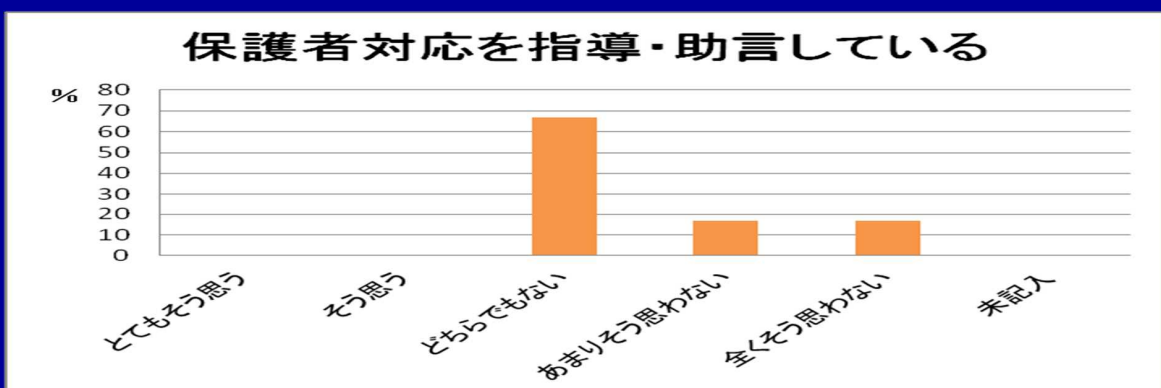


## VII-3 初任者教員や若手教員に対する関わり

応用

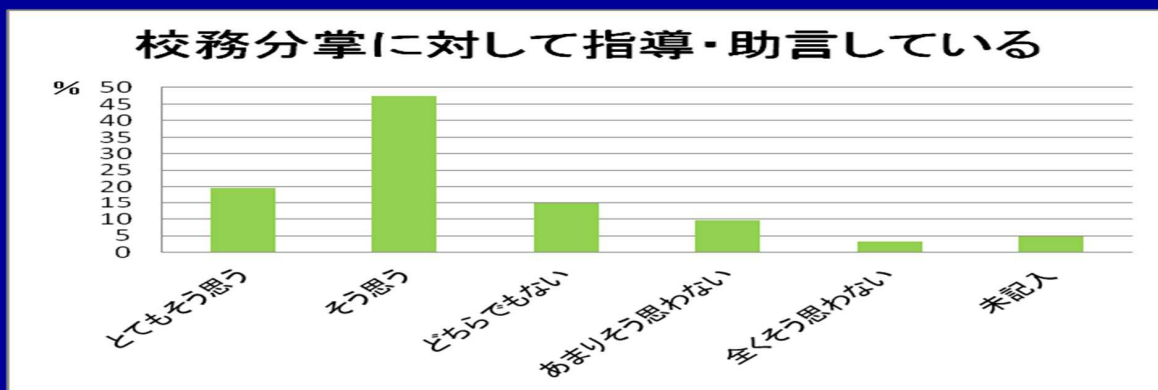


基礎

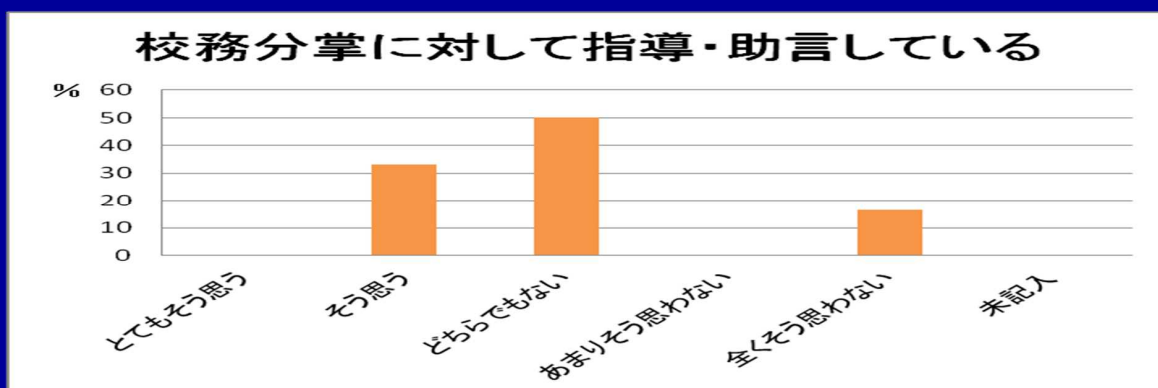


## VII-4 初任者教員や若手教員に対する関わり

応用

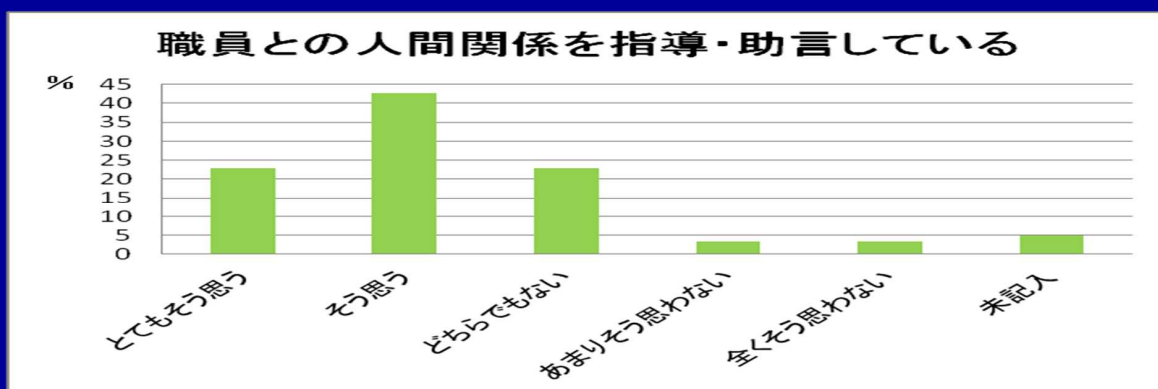


基礎

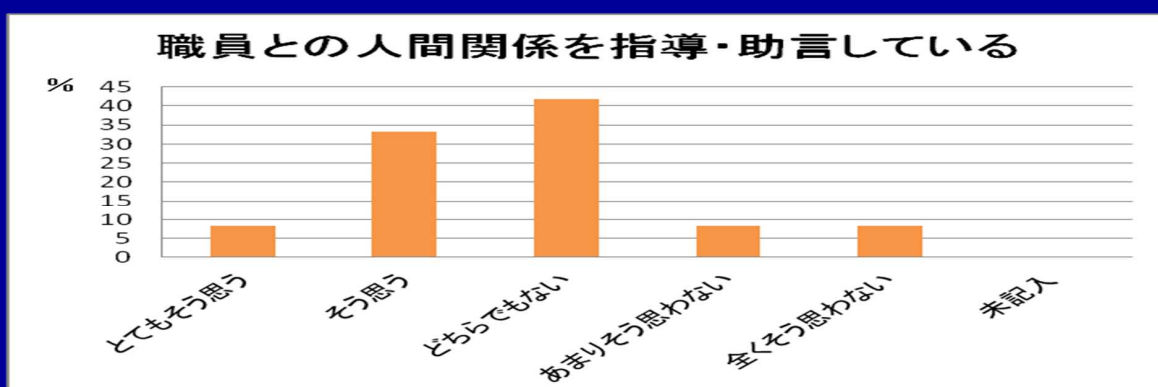


## VII-5 初任者教員や若手教員に対する関わり

応用



基礎





## VII-7 VI・VIIのまとめ

初任者教員や若手教員に対する回答者の関わりを調査した結果、

- ① 応用領域修了者・在学者は、初任者教員や若手教員に対して、授業など様々な内容について積極的に指導・助言をしている。
- ② 基礎領域修了者は、初任者教員や若手教員に対して、指導・助言できている内容とあまりできていない内容がある。

## VIII 愛知教育大学教職大学院の カリキュラム改善に向けて

## VIII-1 愛知教育大学教職大学院の目的

1. 確かな指導理論と実践力・応用力を備え、指導的役割を果たし得る教員を養成する。…(応用領域)
2. 学校教育に関わる理論と実践の融合を基本とし、理論の応用、並びに実践の理論化に関わる諸能力の習得によって、実践的指導力を備えた教員を養成する。……(基礎領域)

## VIII-2 カリキュラム改善に向けて

応用領域修了者や在学者…

各校において、回答者の82.0%の方が「主任」や「委員長」に就いている。また、校内研修(現職教育)の場や、初任者教員・若手教員への指導なども積極的に行っている。一方で、まだ十分な働きをしていないと意識している方もいる。

基礎領域修了者…

学級担任等としての実践的指導力は高いものの、校内研修をリードしたり、初任者教員に対して指導・助言をしたりすることが不足していると意識している方もいる。

## VIII-3 最後に

愛知教育大学教職大学院の修了者・在学者が、さらに校内において、指導的な役割を果たしていくためには、カリキュラム上、どのような取り組みをしていけばよいと考えますか？

みな様のご意見をいただければと思います。

愛知教育大学教職大学院FD全体会

ご清聴、ありがとうございました。

宮下 治・倉本 哲男